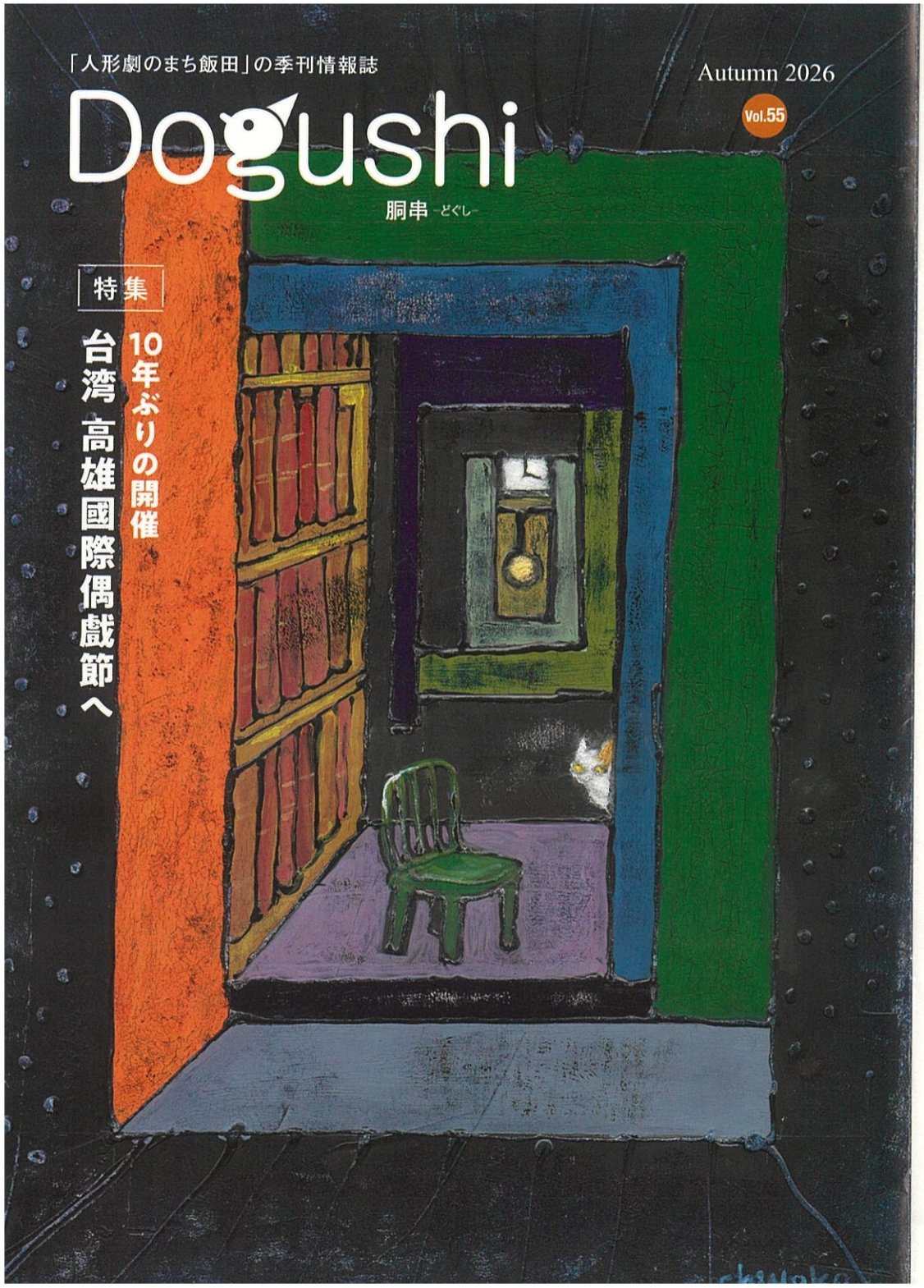


Dogushi Vol.55
2026年11月発行　発行：「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作：NPO法人 いいだ人形劇センター〒395-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL050-3583-3594 FAX0265-52-3594 E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp
表紙画：井原千代子

其の十一

日本列島 人形劇祭の旅


オープニングイベント

丹波ささやま人形劇フェスタ

このフェスタはゆたかな自然の中にある「篠山チルドレンズミュージアム（ちるみゅー）」を母体として、豊かな芸術体験の機会を提供し、地域に残る古民家や文化遺産に触れてもらいたいという思いから、歴史的建造物を会場に人形劇の上演を繰り広げています。

全国のプロ・アマ人形劇団、15団体以上の参加で賑わい、毎回地元のこどもたちで結成される「ささやまこども人形劇団」（人形劇団クラルテ・指導）は大入りでフェスタ後出張公演の要望もあるほどです。貸切バスで上演会場や城下町を楽しめる回遊型の観劇ツアーや古民家の所有者から昔話や、古民家がここにあり続ける理由などを聞く機会もあるこの地ならではのフェスタです。

しかし、2020年度新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて中止、以降は古民家での開催をとりやめ、「ちるみゅー」のみの開催となっています。

今年度第12回は11月22・23日開催、野外テラスで地元丹波篠山太鼓の演奏でスタート。ちるみゅースタッフ手作りによる郷土料理の黒豆ごはんに猪汁、壺焼き芋にピザの販売などご当地色いっぱい。豊かな自然と澄んだ空気の中で人形劇を楽しんで郷土料理に舌鼓、住みたくなる田舎ともいわれる丹波篠山へぜひお越しください！

次年度からはいよいよ古民家等への開催も計画しています。

（同フェスタ副実行委員長 東口次登）


子ども人形劇団


人形劇団クラルテによる人形作りワークショップの様子


郷土料理販売

DATA

丹波ささやま人形劇フェスタ

主　催：丹波ささやま人形劇フェスタ実行委員会
場　所：篠山チルドレンズミュージアムを中心に古民家、寺社仏閣など歴史的建造物にて
開　催：2014年（平成26）から
問合せ：篠山チルドレンズミュージアム ☎079-554-6000

並木さんぽ

10年ぶりに人形劇フェスが開催された台湾高雄市へ出かけました。今夏、飯田のフェスでお会いした方々、コロナ前の交流以来久しぶりに会う方々、皆さんあたたかく迎えてくださり、再会を喜びました。人形劇を通じた交流がこの先も長く続きますように。

次号は2027年1月発行予定です。（帆）

掲示板　いいだ人形劇センターからのお知らせ

クリスマスに人形劇の贈りもの

劇団うりんこ『ともだちや あいつもともだち』

大人気の絵本「おれたち、ともだち！」シリーズを舞台化。キツネやオオカミなど森の仲間たちがいきいきと登場し、絵本の世界が目の前に広がります。



■日　程：12/19（土）19:00開演、20（日）10:30開演
■場　所：飯田人形劇場
■料　金：大人券2,800円、子ども券（3歳～高校生）1,500円、おやこ券（大人1人・子ども1人）4,000円
■問合せ：NPO法人いいだ人形劇センター ☎050-3583-3594

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり

昨秋、長野県内9つの文化芸術団体が、子どもに豊かな文化環境を提供できる社会を共に創りたい、という思いをもつ方々から長野県みらい基金に寄付をいただいた「『まわる幸』出会う！子どもとアート」プロジェクト。いいだ人形劇センターもこの活動に参画し、ご支援いただいた活動資金を活用して、今年度はこれまで訪ねたことのない子どもたちの居場所へ人形づくりの講座に出かけることができました。

8月は伊那市の造形教室「つくるこつくりて」で〝フェルトのちびっこ人形〟づくり、9月は岡谷市の地域住民が主催し、茅野市のNPO法人サポートCが支援する「こどもだるま食堂」で〝モンスターパペットをつくってあそぼう〟を行いました。







つくるこつくりて（伊那市）

幼児から小学生が参加。人形をつくった後、それぞれが自分の好きなようにセットや装飾も考えて舞台づくり。そこから自由な発想で物語をつくり人形を操っていました

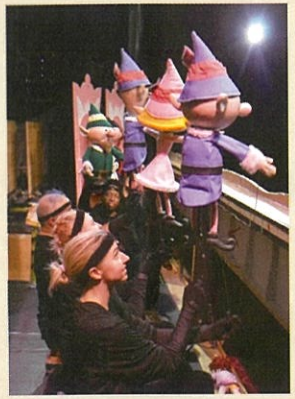






こどもだるま食堂（岡谷市）

子どもだるま食堂に集う親子30人が参加。紙コップに目玉をつけ、毛糸や色紙などさまざまな材料で飾り付けをして完成。お昼ごはんをいただく前にさまざまなアトラクションが行われており、そのアレンジを茅野市のNPO法人サポートCが担っています



年間600以上の公演のほか、ワークショップ、人形劇フィルム上映などが行われている



アトランタ人形劇芸術センターの外観
公式ウェブサイト:https://puppet.org/

筆者も24年前に訪れましたが、今では公式ウェブサイトを開くと、センターの歴史や世界中の人形たち、舞台写真、ワークショップを楽しむ人々の様子などが次々と紹介されています。人形劇の楽しさと奥深さに触れられるアトランタ人形劇芸術センター。ぜひ同ウェブサイトを訪れ、世界の人形劇文化とその魅力に触れてみてください。



メイン会場「高雄市皮影戲館」（写真右奥）に設置されたサインボード



参加劇団の紹介や上演日程が一目でわかる大型掲示

特集 10年ぶりの開催

台湾 高雄國際偶戲節へ

台湾南部にある台湾第2の都市・高雄市で10年ぶりとなる「高雄國際偶戲節」（10月17日～25日）が開催され、日本・飯田からは『わたちゃんのほのぼの劇場』が参加し、人形劇を通じた文化交流を行ってきました。

高雄國際偶戲節のメイン会場は、高雄市の中心から車で約20分の岡山区にある「高雄市皮影戲館」とその隣にある大ホールを備えた「岡山文化センター」です。海外からは韓国・トルコ・タイ・インド・日本の5カ国、台湾は地元の影絵劇団をはじめとする7劇団が参加。週末の土日は2会場で有料公演が行われ、いずれの会場も幼児から大人まで幅広い年齢層の方が訪れ、賑わいをみせていました。

同偶戲節の特長は、期間中の平日は各劇団が高雄市内の幼稚園や小学校、大学など〝教育の場〟へ出向いて上演を行うプログラムにしていること。なかには大型バスで「岡山文化センター」に集い、複数の学校の子どもたちが合同で観劇する機会をつくっています。

『わたちゃんのほのぼの劇場』も、10月18日（日）に「高雄市皮影戲館」で有料公演の後、19日・20日の2日間は高雄市内の小学校、特別支援学校、高雄科技大学での上演の機会を得ました。糸操りの短編3作品と日本の伝統芸能・南京玉すだれ、そして獅子舞と続く40分間の上演は拍手がやむことなく、会場は笑顔と熱気にあふれていました。

（NPO法人いいだ人形劇センター事務局 坂本美帆）



バス停、歩道橋など高雄市内のあちこちで見かけた広告